

津南町・栄村エッセ

江戸川高同窓会云

「先生、ありがとう」

津南出身・中澤九萬男氏の墓参りに

○…亡き恩師の墓前に、教え子ら30人が祈りを捧げた。東京都立江戸川高同窓会・蓮葉会（はちすばかい、小泉功会長）は19日に津南町に来訪。同高が創設された昭和15年から英語教諭を務め、40年余教鞭をとった中澤九萬男氏（中深見出身、平成7年82歳で逝去）の墓参りをし、校歌を歌うなど感謝を捧げた。

○…身寄りがなかった中澤氏は死去前、同高同窓会に習志野市の自宅など財産を寄付。その額は3500万円余で、同会の悲願であった同窓会館設立事業に貢献。寄付もあり母校わきに今春4月に同窓会館は落成し、その報告を兼ね今回の墓参りを実施。中津川沿いの水田の真ん中に、ひっそりと佇む中澤氏の墓。教え子で後に教師となり同僚でもあった小泉会長（71、江戸川区）は「身長170センチで当時としては長身で格好よく、頑固で曲ったことは大嫌いなジェ

ントルマンだった。母校の礎、精神を作った1人だった」と手を合わせた。

○…墓参りを企画すると参加申込は相次ぎ、50〜80代30人余の幅広い世代が集まった。18期生で町内加用出身の村山壮人さん（69、新座市）もその1人。中学3年に同区に引越し、江戸川高で3年間中澤氏の薫陶を受けた。帰省時によく墓を参る。「同じ津南出身の先生がいて、もう50年前だが驚いたことを鮮明に覚えている。非常に穏やかで皆が慕っており、感謝の想いしかない。津南の偉人としてもっと知られてもいい」と



感慨深そうに語った。

恩師の中澤九萬男氏の墓前に祈る江戸川高同窓生（19日）